



次いつ来るの？

【新潟県】小泉美香 こいずみ みか
36歳

「あんた次いつ来るの？」。彼女は私に聞いた。翌日、彼女は生涯を終えた。

私は30歳で看護師になった。それまでは病院でクラークとして、看護師の彼女と一緒に働いていた。育児をしながら看護学校へ通うと言った私を心配しながらも、待っているからと応援してくれた。

看護師2年目、がんの終末期となった彼女と再会した。私は彼女の担当看護師となった。「あんたが看護師になってここに帰って来るの待ってたよ」。痩せ細った彼女の言葉に涙が出た。私は看護師として彼女に何が出来るだろう、彼女のもとへ行くたびそう思っていた。痛み止めを使っても

らう、体をさする、私が彼女にできたことはこのくらいだった。「こんなことしかできなくてごめんね」。私がそう言うと、「こういうことができるのがいい看護。さすったり、話をしたり」「あんたいつもニコニコして、元気がいいから、こっちも元気になる。私はあんたが来るとホッとする、あんたが来るの待ってるんだよ」と彼女が言った。私はまた彼女の言葉に涙が出た。泣きたかったのはAさんだったのね。

その日も彼女の体をさすり話をして過ごしていた。勤務の終わりが近付いたため、病室から出ようとするといつも通り彼女は私の心配をした。「疲れていない？仕事つらくない？」と。つら

かったのはAさんだったのね。

その日はその言葉の後に「あんた次いつ来るの？」と続けた。「明日の16時半、また明日ね」と私は答え病室を出た。翌日16時32分、彼女は旅立った。彼女はまた待っていてくれたのだ。待っていてくれてありがとう。最期まで看させてくれてありがとう。

看護師5年目。今も心配しているかな？ 大丈夫!! 笑顔と元気を武器に、毎日頑張っているよ。元気がもらえる、あんたが来るとホッとする、そんな看護師でいられるように。